

まちを歩こう！

～まちなか美術館をめぐる～

CERAMIC MUSEUM

こぼろぎに
あたる
つれさ
う旅にひと
今こそ一
歩を
踏み出す

あおきしげる 青木繁の碑 (児童遊園内)

碑の題字の下には、青木繁が読んだ秋の夜という短歌が、本人の肉筆で彫り込まれています。「こぼろぎに更くる 夜ごとをつづれさす 旅に五とせの 今二十一 秋の夜 青木繁」

青木繁 作

「わだつみのいろこの宮」



美術館や板谷波山記念館が立ち並ぶ下館駅北口には、駅前から国道旧50号にかけて、筑西市にゆかりのある作家の美術作品が気軽に楽しめる「まちなか美術館」が設置されています。ぶらりとまちを歩きながら、美術鑑賞をしてみませんか。



板谷波山 作

「葆光彩磁瑞花鳳凰文様花瓶」



やまとたけるのみこと

「日本武尊」 青木繁 作



「日本武尊」は自分の代わりに入水した妃弟橘比売を偲ぶ場面を描いています。左側に書かれている人物は、青木の自画像といわれています。



おおあなむちのみこと 青木繁 作「大穴牟知命」



川島郵便局で製作した作品です。左側の正面を向いている女性は、恋人の福田たねがモデルと言われています。

青木繁 作

「海の幸」



セラミックアート

まちなか美術館のモニュメントは、陶器製板に作品を焼き付けたセラミックアートと呼ばれるもので、半永久的に色褪せないのが特徴です。原作とほぼ同じサイズで作られています。

まちを散策しながら美術鑑賞なんてすてき！
ゆっくり歩いてみると普段は見逃してしまう新しい魅力に出会えるかも！！

市民記者
星野道子さん





原 周二さん(一本松)

波乱に富んだ高名な芸術家の系譜に驚くばかりです。ぜひまちなか美術館をご覧ください。

下館駅前稲荷町通りに明治時代の画家青木繁の作品が飾られている。代表作である「海の幸」をはじめ、「大穴牟知命」、「わだつみのいるこの宮」、「日本武尊」など3か所に4作品が、半永久的に色褪せないセラミックアートで設置されている。これらは、稲荷町周辺の街並み環境整備事業の一環として、市が平成15年から平成18年にかけて整備した。筑西市参与の石井正氏によると、本市にゆかりのある著名な芸術家をたたえるため、板谷波山記念館やしもだて美術館に続いて、より市民に親しんでもらえるよう、まちなか美術館を整備したという。

青木繁 恋人との運命の出会い

夭折の天才画家 青木繁

知られざる筑西市との関係について紹介します。

気軽に楽しむ美術鑑賞



【青木繁】古事記を愛読し、古代神話を題材にした絵画作品を多く製作した。また、俳句や短歌など文学的な方面にも優れた作品を残している。

ロマンスと筑西のかかわり 恋人と市内川島に滞在

青木繁は、明治15年に福岡県久留米の武士の長男として生まれた。代表作「海の幸」は国の重要文化財に指定され、美術の教科書にも掲載されている。28歳のとき肺結核により、その短い生涯を閉じている。

市内にある羽黒神社参道沿いの児童遊園の一角には、「青木繁の碑」がある。この碑は、昭和46年に青木繁建碑協賛会が没後60年を記念して建立したもので、その裏面には青木が川島地区に滞在したことが記されている。建設の企画者原蒼愁氏（徳持）によると、碑の表面の題字は、青木の美術学校の同級生で文化勲章を辞退した熊谷守一氏に依頼し、題字の下は短歌は青木の肉筆のものを彫ったという。

青木は、19歳で画家を志して上京し、東京美術学校入学の前年、洋画家小山正太郎の画塾「不同舎」に入門した。それから4年後、栃木県水橋村（現芳賀町）出身の福田たねが、絵の勉強のために上京して不同舎に入り、青木を知ることとなる。たねは初め青木の絵にあこがれ、やがて二人は、相思相愛の仲になっていったと言われている。



【福田たね】大恋愛の末に未婚で死別。青木繁の代表作「海の幸」のモデルとされている。当時は、大穴牟知命の物語が流行していた。

明治38年8月、23歳の青木は、20歳で臨月を迎えた恋人のたねを伴って市内川島を訪れた。たねの実家は芳賀町で呉服商を営んでいたが、未婚であるたねの懐妊を知った福田家は、世間体をはばかり、取引のある下館の間々田呉服店にたねの世話をお願いしたのである。同店の主人が当時の川島郵便局長池羽高之助氏と親しかったことから、地元有力者であった池羽夫妻が二人の世話をした。

二人は、水戸線の川島駅に近い「玉乃井旅舎」に滞在。筑西市に滞在したのは、たねの臨月であった8

月から、青木が実父の病気のため九州に帰省する11月までの間と見られている。この期間に青木は鬼怒川の河原と川島郵便局の局長室で大作「大穴牟知命」を描いている。

三代続く芸術家の系譜

この川島で、たねは青木の一子幸彦を生んでおり、この子が後の音楽家福田蘭童である。まだテレビのない私たちの小学生時代、NHKのラジオ放送で福田蘭童作曲のテーマソングで始まる「笛吹童子」は、悪ガキをとりこにしたものだ。前述の羽黒神社わきの石碑の裏面に記された川島滞在の書は、子息福田蘭童の肉筆によるもので、碑の除幕式にも出席している。また、蘭童の子は、クレージーキャッツにいたピアニストの石橋エータローで、青木繁の孫に当たる。芸術家の資質は、連綿と受け継がれているのである。

まちなか美術館、青木繁の碑など、地域が持つ文化的資源を今後とも大切に維持し、その存在を広くアピールして地域の活性化に繋げたいものである。



【福田蘭童】2歳で父と死別。青木繁と結婚し、正式に青木家の養子となった。母方の実家から預けられて育った。